

2020(令和2)年度 事業計画

公益財団法人 日本レクリエーション協会

公益財団法人 日本レクリエーション協会

2020(令和2)年度 基本方針

人々がスポーツ・レクリエーション活動を通じた健康づくりに取り組み、活動を継続しながら、周りの人々の健康づくりを支援する役割を担うようになる。多くの国民がこうしたスポーツ・レクリエーション活動との関わりを持つことを目指して、多様な活動の機会及び情報の提供と、指導者育成の体制を整えるために、2020年度は次の点に力点を置いた事業を行う。

1. 健康スポーツを推進する連携事業・ネットワークづくり

人生100年時代を見据え、子どもの頃から運動習慣を身につけ、100年という長い期間を健康に生きるための仕組みづくりが求められている。スポーツ庁においても、スポーツ実施者を新たに1000万人増加させることを目指した「Sport in Life 推進プロジェクト」が始まろうとしている。

こうした健康づくりのためのスポーツ振興においては、スポーツと疎遠だった人でも楽しむことができ、障がいの有無にかかわらず皆が参加できるスポーツ・レクリエーション活動は大きな役割を果たすことができる。そうした期待に応えていくために、加盟団体や関係団体と連携した普及事業、情報共有・発信、人材育成等を試み、「健康スポーツ」を推進する体制を構築する。これまで取り組んできた「スポーツ・レクリエーション指導者」の養成や「健康スポレクひろば」、「元気アップ・プログラム」の普及についても、都道府県レク協会が実施しやすい、また加盟種目団体と連携しやすい形を検討しながら進める。

全国レクリエーション大会と全国一斉「あそびの日」キャンペーンについても、スポーツ庁及び東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、ワールドマスターズゲームズ2021 関西組織委員会と連携し、大会機運の醸成を図りながらスポーツ実施率向上に向けた啓発・参加促進を行う。

2. 都道府県レク協会の人材養成事業の強化

2019年度、公認指導者のすそ野を拡大するための「レク・サポーター研修プログラム」を普及し、そのための講師育成を行った。レク・インストラクターについても、通信学習や現場学習の仕組みなど受講のしやすい学習方法を整えた。2020年度は、これらのプログラムや仕組みが活かされるように、都道府県レク協会の人材養成事業の強化に取り組む。

これは今後5年間の目標を設定した中期計画として取り組み、都道府県レク協会においても個々の目標の設定と、「レクリエーション普及推進事業費」の活用も含めた人材養成に関わる事業計画及び予算の再検討を行いながら進める。

人材養成事業の実施が難しい都道府県レク協会については、新しい学習方法を導入したモデル事業や人材養成に力点を置くための事務局機能の負担軽減等によって支援を行う。

このための環境づくりとして、実績のある公認指導者を無料で派遣する「心の元気づくり 365

プロジェクト」による公認指導者及び都道府県レク協会の認知度・信頼性のアップに取り組み、人材養成を担当する講師と今後協会の運営を担うマネージャーの育成も行う。また、スキルアップ制度における準上級レク・インストラクターを都道府県レク協会でも育成できるよう、研修プログラムとテキストの整備を行う。

1. 人材養成事業

(1) レクリエーション普及研修

レクリエーション支援のノウハウや具体的なスポーツ・レクリエーション活動を、多くの人々が活用できるよう、研修プログラムを普及する。また、研修プログラムの無償提供も行い、普及を促進する。

①レクリエーション・サポーター養成研修のための講師育成

短時間でレクリエーション支援の基礎を学び、レクリエーションの理解者を増やすレクリエーション・サポーター研修を普及するため、全国2会場で講師トレーニングを実施し、研修を実施できる講師を全都道府県に配置する。また、都道府県ごとに講師を育成できるよう、講師育成担当者説明会（研修）を東京にて実施する。

なお、講師育成にあたっては、レク・インストラクター・スキルアップ制度（中級認定）との関連も示しながら、相乗効果を図ることとし、2020年度は年間5,000人のレクリエーション・サポーター登録を目指す。

②教員のためのレクリエーション講習会

文部科学省より教員免許状更新講習開設者の認定を受け、夏期に選択領域の2講習（12時間講習と6時間講習）を38都道府県（2019年度・32都道府県）にて開催し、述べ約3,800人の受講を見込む。

12時間講習は、レクリエーション・サポーター研修の内容を組み込み、受講者を「学校レク・サポーター」として登録し、終了後の情報提供など継続的な働きかけを行う。

「教育現場に活かすレクリエーション活動の体験学習」 12時間

「遊びが運動になるレクリエーションプログラムの体験学習」 6時間

・日 程：2020年7月下旬～8月下旬

・講座数：12時間講習×42講習 6時間講習×42講習 合計：84講習

・開催地：北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、福島県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、東京都（2会場）、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、静岡県、愛知県（2会場）、三重県、滋賀県、京都府、大阪府（2会場）、兵庫県（2会場）、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、福岡県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

③元気アップ・リーダー養成

2019年度は、約1,300名の元気アップ・リーダーが新たに誕生し（2019年12月現在）、各地域で元気アップ・プログラムを普及した。2020年度は、さらなる展開を目指して全国40会場にて元気アップ教室を開催し、1,200名の元気アップ・リーダーを養成する。

養成した元気アップ・リーダーの活動への意欲を高めるため、元気アップ大会を開催す

るほか、ホームページと「レクぼ」を活用した情報提供を行う。

④心の元気づくり 365 プロジェクト（新規）

レクリエーション支援の有効性と様々なスポーツ・レクリエーション活動の普及、そして公認指導者及び都道府県レクリエーション協会の認知度・信頼性を高めることを目的に、レクリエーション・サポーターの研修プログラムや元気アップ・プログラム等は無償で提供（講師派遣）する「心の元気づくり 365 プロジェクト」を実施する。

派遣先はこれまでレクリエーション協会との接点がなかった団体・施設等とし、年間約 360 件（1 日 1 件）実施する。また、「Sport in Life 推進プロジェクト」の中で行われる子どもの体力向上に向けた研修等にも講師を派遣する。

実施にあたっては、日本レクリエーション協会が窓口となり、依頼者からの情報を当該都道府県レクリエーション協会と調整（マッチング）を行い、講師を派遣する。

なお、実施状況は担当講師の報告書をもとに、ホームページにて公開する。

（2）公認指導者養成

受講者が学習しやすく、かつ実践力を高める学習方法を取り入れながら公認指導者の養成を行う。スポーツ・レクリエーション指導者については、加盟種目団体等と連携して養成する方法を検討する。

①レクリエーション・インストラクター養成

（1）都道府県レク協会等での養成

都道府県及び一部の市町村レクリエーション協会において養成事業を実施する。今年度は、レクリエーション・サポーター研修や理論科目通信学習とつなげた養成、現場学習を導入した養成など、新たな養成モデル事業を全国 3 か所で実施する。また、研修を行う講師の育成も行う。

こうした取り組みや広報活動を拡充し、資格取得者 1,000 人を目指す。

（2）理論科目通信学習の普及

2019 年度から開講したウェブによる通信学習（レクリエーション通信講座）をさらに拡大するために、関係団体への受講キャンペーンや広報、動画等のサブ教材の作成、e ラーニング関連サイトと連携を行い、350 人の受講を目指す。

また、受講者がレク・インストラクター養成に進みやすくする方策を、都道府県レク協会と連携して行う。

（3）課程認定校の教員を対象としたレク・インストラクター養成講習会の開催

新たに課程認定を希望する学校の教員や、課程認定校教員のスキルアップのために、レク・インストラクターの養成講座（3 日間程度）を 2 月に東京で開催する。

②スポーツ・レクリエーション指導者養成

都道府県レクリエーション協会における新規養成(60時間履修講習会)について、本年度は、福島県、新潟県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、福岡県、熊本県、沖縄県の9県レク協会において開催し、200名程度の新規登録者をめざす。

また、スポーツ・レクリエーション指導者が提供する活動の幅を広げ、「Sport in Life 推進プロジェクト」が目指すスポーツ実施者の増加に貢献していくために、日本ウォーキング協会等の加盟種目団体や、全国スポーツ推進委員連合等の関係団体と連携した養成を検討し、カリキュラムと学習方法の見直しを行う。

③福祉レクリエーション・ワーカー養成

通信教育と全国10地区(宮城県、東京都、福井県、愛知県、三重県、大阪府、広島県、香川県、福岡県、鹿児島県)でスクーリングを実施する。昨年度同様に実践力の強化に向けて、高齢者施設と連携した現場学習(OJT)を組み込んだスクーリングを行い、受講者が在住地域で学習に取り組める環境づくりを進め、資格取得者100名を目指す。

④高等教育機関での公認指導者養成

専門学校、短大、大学等での公認指導者の養成を行うため、課程認定校の審査・認可及び専門資格についての学内審査等を行う。

レクリエーション・インストラクター	244校	
スポーツ・レクリエーション指導者	24校	
レクリエーション・コーディネーター	10校	
福祉レクリエーション・ワーカー	15校	のべ293校(248校)

課程認定校における公認指導者養成を充実させるために、「課程認定校研究連絡会議」の事務局業務を行う。2020年度は、全国研究集会(会場・福岡大学)、各ブロックにおける研修会等の開催支援を行う。また、公認指導者養成に優れた実績を持つ教員を、アドバイザーとして他の課程認定校に派遣する仕組みを整えるほか、レクリエーションに関する調査・研究所報「自由時間研究」の充実及び編集・発行体制の強化に向けた編集委員会の設置も行う。

(3)資格認定委員会

上記公認指導者資格等の審査および課程認定校の認定を行うほか、今後の資格制度の在り方等についての検討を行う(事務局にて3回開催)。

公認指導者養成の基本的なカリキュラムについて、課程認定校研究連絡会議、日本レジャー・レクリエーション学会と連携した検討を行い、第74回全国レクリエーション大会・研究フォーラムや日本レジャー・レクリエーション学会大会等において中間報告を行う。

(4) 公認指導者認定・登録

都道府県レクリエーション協会、課程認定校で養成された公認指導者の登録に関わる業務を行う。2020年度は、4,000人程度の登録を見込む。

都道府県レクリエーション協会	1,000人	レク・インストラクター
	200人	スポレク指導者
課程認定校	2,800人	レク・インストラクター
	100人	スポレク指導者
	110人	専門資格

2. 指導者の活動支援と組織支援

公認指導者の活動を活性化し、資質を維持向上するため、指導者資格の登録更新を行い、情報発信・提供や再教育の機会提供を行う。また、各地で指導者養成を行い、その指導者を活用した公益事業が展開されるよう、加盟団体の組織支援を行う。

(1) レクリエーション・インストラクター・スキルアップ制度の整備

レクリエーション・インストラクター資格の取得後、経験や支援の実践力、後進を育成する力等を評価・認定する「レクリエーション・インストラクター・スキルアップ制度」の周知を図り、公認指導者の資質と更新率の向上を図る。

2020年度より中級の認定と、これまでの実績を基にした準上級及び上級の特別認定を行う。また、2022年度から行う通常の準上級認定に向けた研修プログラム、認定要件等の準備を進める。

(2) スポーツ・レクリエーション指導者養成事業(補講講習)

平成26年度より実施している標記講習会について、引き続き地域の公認指導者を対象とした補講講習会(再教育)を全国3会場(千葉県、山口県、福岡県)で実施し、120人程度の資格取得を目指す。

(3) 情報誌の発行

レクリエーション支援の考え方やノウハウ、実践現場で行われている活動・種目等の情報を、情報誌「レクルー」の発行を通して公認指導者や関係機関へ提供する。

(情報誌「レクルー」と専門情報誌「レクサイト」を統合して制作・発行)

①情報誌「レクルー」の発行：年4回本誌48ページ

②情報誌「レクルー【増刊号】」の発行：年2回本誌24ページ

(4) 情報発信・提供

① ホームページ、スマホサイト等による情報提供

情報提供サイト「レクぽ」やメールマガジンを活用し、レク活動や用具、情報誌、既刊冊子、都道府県レク協会会報等の情報を、公認指導者、レク・サポーター、元気アップ・リーダーへ提供する。

② 加盟団体の情報管理・支援システムの構築（新規）

「健康スポーツ推進プロジェクト」の一環として、加盟団体の適正な個人情報管理を支援し、加盟団体等の連携したデータ共有・情報発信ができる情報管理・発信システムを構築する。

(5) 加盟団体の支援

① 加盟団体助成金の交付

加盟団体の活動を支援するために、加盟団体助成金を交付する。

② 加盟団体との会議

公認指導者の活動支援や組織づくり、連携事業等について検討するために、加盟団体運営代表者会議（12月・東京都）とブロック会議（6月・全国6会場）等を開催する。

③ 地域事業普及促進強化事業（新規）

都道府県レクリエーション協会の人材養成事業を強化し、養成した人材の活用及び加盟団体と連携した普及啓発事業を拡大していくために、組織を運営するマネージャーを育成し、事業活性化のためのモデル事業を行う。

マネージャー育成及びモデル事業は、人材養成事業が難しい状況にある、または事業の活性化に向けた計画等を設けた都道府県レク協会（数カ所）を対象として実施する。

(6) 公認指導者登録更新

公認指導者の登録更新に関わる業務を行う。更新者約 13,400 人（基礎資格更新率 64%）を見込む。

3. レクリエーションの普及啓発事業

(1) 全国レクリエーション大会

兵庫県姫路市を中心に兵庫県内 6 市において、第 74 回全国レクリエーション大会 2020 ひょうごを開催する。本大会では、総合開会式や交歓の夕べ等の式典、本協会加盟種目団体等による交流大会（22 種目）、公認指導者を中心としたレクリエーションに関する研究や実践の成果の発表を行う研究フォーラム、市民も参加できる体験イベント等を実施する。

・日 程：2020 年 11 月 13 日（金）～15 日（日）

・開催地：兵庫県姫路市、加古川市、明石市、相生市、尼崎市、宝塚市

(2) 全国一斉「あそびの日」キャンペーン

2020 年 4 月 11 日（土）から 6 月 14 日（日）にかけて、第 17 回目を迎える全国一斉「あそびの日」キャンペーン 2020 を開催する。2020 年度のテーマは、「〇〇カケル」とし、世代や障害の枠を越えた交流が広がるように進め、都道府県及び市町村レク協会関係者による約 200 プログラムの参画、約 10 万人の参加を見込む。

また、スポーツ庁の共催を得て、SNS を活用したコンテストにはスポーツ庁長官賞を設置するとともに、オリパラ組織委の協力のもと、東京 2020 参画プログラムとしても承認を得て、東京五輪音頭-2020-を本キャンペーンの推奨プログラムとして取り入れるなど、参画プログラム数と参加者数の拡大を図る。

(3) 「健康スポレクひろば」普及推進

運動と疎遠だった高齢者を対象に、気軽にスポーツ・レクリエーション活動や交流を楽しむことができる「健康スポレクひろば」を全国で展開する。2020 年度は、少ない回数から取り組める事業形態も取り入れ、2019 年度の 60 地区から 100 地区に拡大し、スポーツ・レクリエーション指導者の活用と、健康寿命延伸に寄与する。

また、福祉レク・ワーカーが勤務する高齢者施設における介護予防事業との連携も試みて実施する。

実施にあたっては、高齢社会の課題に対応する公益事業として広く周知するために、メディアリリースの配信などを実施する。

(4) 健康スポーツ推進プロジェクト（新規）

スポーツ庁「Sport in Life 推進プロジェクト」及び加盟団体と連携し、健康スポーツを推進するためのイベント、情報発信、人材育成に取り組む。

① ウォーキングを核とした加盟種目団体連携イベントの実施

健康づくりに関心の高い人々が集まるウォーキングイベントを核に、加盟種目団体を中心とするスポーツ・レクリエーション活動を体験し、健康スポーツを普及する新たなレクリエーション・イベントの開発に取り組む。本プロジェクトは、日本ウォーキング

協会との連携を基盤にして行う。

②健康スポーツを普及する情報サイトの開発

加盟種目団体と連携して各団体のイベントや指導者養成事業などの情報を発信し、健康スポーツへの関心を高め、イベント等への参加促進、参加者への活動継続を促すための情報提供を行うインターネット情報サイトを開設する。

(5)運動部活動改革プラン(スポーツ庁企画公募)

生涯にわたって運動習慣が身につく機会となるよう、楽しみや体力づくりのための運動部活動「スポーツ・レクリエーション部」をモデル的に実施し、新しい運動部活動の在り方を提案する事業を実施する。2019年度に引き続き東京都八王子市、大阪市内にて実施予定。

(6)チャレンジ・ザ・ゲームの普及

日本レクリエーション協会内にチャレンジ・ザ・ゲーム全国本部を設け、都道府県レク協会(都道府県本部)と連携し、チャレンジ・ザ・ゲーム大会の普及と記録の管理を行う。(普及審判員の養成は、「1(1)③元気アップ・リーダー養成」として実施。)

2019年度はホームページの改修により、すべての記録申請がタイムリーに確認できるようになった。2020年度は、新種目を開発して記録申請数の増加を目指す(2021年1月の普及審判員代表者会議にて公開)。

(7)スポーツテンカの普及

スポーツテンカの普及に力を入れている都道府県レクリエーション協会と連携し、指導者派遣、情報提供、愛好者のネットワーク化を試み、組織化を目指した普及体制づくりを行う。

(8)受託研修・講師派遣

心の元気づくり365プロジェクトの実施や実践現場の動画等ウェブサイトの充実などを通して、レクリエーション・サポーター研修、元気アップ・プログラム教室等を、教育委員会、青少年育成団体、社会福祉協議会、高齢者施設等に広く周知しながら受託研修や講師派遣の拡大を目指す。心の元気づくり365プロジェクトとは別に、年間60件程度の受託研修・講師派遣を見込む。

(9)スポーツ庁及び他団体との連携事業

スポーツ庁等と共催する生涯スポーツ・体力づくり全国会議、「体育の日」中央記念行事、「Sport in Life 推進プロジェクト」等への協力を行う。

(10)元気アップ大会の開催(新規)

元気アップ・プログラムの普及と元気アップ・リーダーの活動の場づくりとして、全国15会場にて元気アップ大会を開催し750名の参加者を見込む。「第74回全国レクリエーション大会2020ひょうご」においても、特別行事等を活用して元気アップ大会(全国大会)を開催する。

4. レクリエーションの普及・振興につながる用具・書籍等の開発・販売拡大

レクリエーション支援に効果的に活用できる用具・書籍を紹介する「レクリエーション・カタログ2021」を年度末に発行し、関連機関・団体へ配布する(発行部数:約4万部、グッズ約100種、書籍約50点掲載)。

また、全国レクリエーション大会をはじめ、関係団体が実施する全国スポーツ推進委員研究協議会(栃木)、生涯スポーツ・体力づくり全国会議(群馬)等でのカタログ配布、展示ブース設置も行う。

ECサイトからの販売の促進を目指し、サイトの充実によるアクセス数の増加も試みる。

5. その他

レクリエーション功労者表彰及び各種表彰への推薦

表彰規程に基づき、レクリエーション活動の普及に貢献してきた功労者並びに団体を表彰する。また、文部科学大臣生涯スポーツ功労者表彰及び社会教育功労者表彰、内閣府エイジレス・ライフ実践者、紺綬褒章の候補者等を推薦する。